

縄文人も やってた!? 赤ちゃんの手がた・足がたを採ろう!

赤ちゃんの記念レリーフづくり

2019

11.3 (土)

13:30~

一万年の祈り 縄文人のココロ・現代人のココロ

縄文時代の人々はたくさんの「道具」を編み出し、様々な用途に用いてきました。しかし、その中には現代人が機能や用途を推測することが極めて困難な道具も多数あります。幼児の手や足を粘土に押し付け、土器同様に焼き上げた「足型付き土製品」や「手型付き土製品」も未だに用途がわかっていない縄文時代の道具の一つです。岩手県内では、滝沢市の湯舟沢Ⅷ遺跡から「足型付き土製品」が一点出土していますが、全国的にみても「手型・足型付き土製品」の出土例はごくわずかなので、何のために作ったものなのか、そしてその使い道は何だったのかわかっていません。しかし、この資料は医学的な鑑定が行われており、それによると、この足型は身長80cm、体重10kg、胸囲45cm。生後10～12カ月の男児のもので、しかも粘土板に直立させて足を押し付けたものであることがわかっています。わが子が無事に成長したことへの感謝の気持ちを表したのか、あるいは通過儀礼的な祭りの道具だったのか、もしかすると子どもが「初めて立ち上がった」ときの感動のあまり記念に採取したものかもしれません。いずれにしろ、わが子の健やかな成長を祈る気持ちは、縄文人も現代人である私たちと同じであったことは想像に難くないでしょう。



完成見本

●日時 2019年11月3日(文化の日) 13:30~

●会場 えさし郷土文化館 体験棟

●講師 陶芸家 太田 茂樹先生

●内容 赤ちゃん(0~3歳児まで)の手型・足型を粘土で採取する
記念レリーフづくり

※作品は2~3週間かけて自然乾燥させて素焼きを行うため、作品がお手元に届くまでに1カ月半~2カ月程度かかります。あらかじめご了承願います。引き渡しは当館にて行います。

●定員 20名(定員となり次第、募集を締め切らせていただきます)

●料金 1,500円

●受付開始日時 10月19日(土) 9時よりお電話にてお申込みを受付ます

☎ 0197(31)1600



手がた採取の様子



足がた採取の様子